

令和5年9月15日

産業厚生委員会

阿久根市議会

1 会議名 産業厚生委員会

2 日時 令和5年9月15日(火)

午後1時開会

午後1時29分散会

3 場所 第1委員会室

4 出席委員

竹之内 和 満 委員長、大 野 雅 子 副委員長、白 石 純 一 委 員、
大 田 基 次 委 員、竹 原 信 一 委 員、牟 田 学 委 員、
濱 田 洋 一 委 員

5 事務局職員

議事係主任 松 林 俊 介

6 会議に付した事件

所管事務調査

7 議事の経過概要 別紙のとおり

審査の経過概要

○ 所管事務調査

竹之内和満委員長

ただいまから産業厚生委員会を開会いたします。

本日の議題は当委員会の所管事務調査の具体的内容についてであります。

前回までの委員会で3つの調査項目を決めました。

1番が観光の振興について。2番が中高及び青果市場跡地を含む市街地活性化について。3番が新道の駅の整備についてです。

これらをもとに、今任期中で具体的にどういったことを調査したいか、委員の皆さんから御意見を伺うことといたします。

まずは1番の観光の振興についてですが、どのようなことを調査するか委員の皆様のお意見をお願いいたします。

白石純一委員

阿久根の場合は、やはり海を活用する観光が非常に大事になってくると思いますので、海を活用した観光に特に焦点を当てたいと思っております。

竹之内和満委員長

海を活用するですね。

ほかには何かございませんでしょうか。

濱田洋一委員

阿久根市においては、やはり食のまちということでもありますので、例えば、今、白石委員からもありましたけれども、海とやはりこの食、そして、そういった景観、自然景観を取り入れたまちづくりという、今、いわゆる先進地といいますか、そういったところの調査をお願いしたいなと思います。

竹之内和満委員長

はい、ほかに。

牟田学委員

何年か前にですね、今、旧港に停まっているグラスボート、あれがそのままあそこに係留してあるんですよ。

いろんないきさつがあったことは事実なんですけれども、ああやって停めて係留しているのももったいない話であって、そこ辺りをもう一回ですね、まあ執行部ともですけれども、もう一回ちょっと検討する調査といいますか、必要かなと思っています

竹之内和満委員長

ほかにごございませんでしょうか。

竹原信一委員

今の牟田委員の意見は、阿久根市のそれを見に行くというような感じのあれなんですか、所管事務調査のテーマだから。

牟田学委員

今あそこに係留してある、グラスボートとちょっともう1隻、2隻あるんですけども、何年か前に、齟齬が、折り合わなかったっちゃうか、いろいろあったのが事実なんですよ、

執行部とな。それ、あのまましとくのももったいない話で、やはりもう1回、議会が中に入って、調整っていいですか、できるのであればですね、そこあたりもちょっと調査対象にしてもらえればと思います。

竹原信一委員

これさ、はい、考えて、今回。

〔発言する者あり〕

今、話をしようとしているのは、所管事務調査って言われるやつ、これ所管事務調査の概念からちょっと考えましょうよ。

まず、私たちは所管事務調査と言ったら、つい先進、どこに、阿久根以外のところに見に行きましょうの、所管事務調査イコール見に行きましょうと現実はなってきたわけですよ。

じゃあ、根本に戻って、阿久根、この委員会が、全てにわたって調査を対象にしてやりましょうという考え方で行くんですね。

牟田学委員

僕の意見は、僕の一つの考えであって、別に旧港に停まってるやつ。

係留してしてるやつなんですよ。

そこをやはりもう一回、何とかできないかなという調査ですよ。

他はちょっと、あっちこっち行っていいと思います。

白石純一委員

今の補足ですけれども、私も牟田委員の意見には賛成です。

私が申した海を活用した観光のその一部にも当然なるわけですから、それも含めてですね、やっぱり海を中心とした観光をまず、焦点を当てる。もちろん海には食も当然つながってきますので、そして景観ですね。

海を活用した観光の中に食や景観も入る。

大田基次委員

私も牟田委員の意見に賛成です。

できる限り、ほかののとかねて、いろんなのですね。観光するのに、かねて、これもあるよってということで、ここ子供も呼べるだろうし、いろんなのがあると思います。

ただ、船の持ち主さんは、簡単にうんとは言わないと思います。

大分こっちから折れてお願いしていかないと。

〔発言する者あり〕

竹原信一委員

もめたというのはどういうことなのか、知ってることがあったら教えて。

竹之内和満委員長

休憩します。

(休憩 午後1時5分～午後1時7分)

竹之内和満委員長

休憩前に戻して会議を再開します。

大野雅子委員

私も海を活用した観光、見てみたいと思います。それと別にこの所管事務調査に当たるのかどうか分からないんですけども、市内の商工観光関係の、この間の質問でも出たんですけど、連携っていうのが今ちょっととれていないような気がするので、その連携がうまくいってるところの例とか、今からまた市長も新しくつくると言われていたので、その辺も、本当にみんなが一丸とならないとこの観光というのはいまうまくいかないと思うんです。

出す人、つくる人、支える人、PRする人、みんなが一緒にやらないと、どれもうまくいかないと思うので、そこら辺の勉強もしたいと思っておりますが。

白石純一委員

今、大野委員がおっしゃったように、市長は観光DMOという組織を立ち上げたいとおっしゃってました。

〔竹原信一委員「なんて」と呼ぶ〕

観光DMO。アルファベットのD、M、Oで。

〔竹原信一委員「日本語で」と呼ぶ〕

DESTINEE……日本語で言うと、直訳すると目的地、目的観光地まで経営母体ということですけども、日本語で観光庁が言ってるのは、観光を基軸としたまちづくり組織、あるいは、一般的に言われてるのは観光推進組織。今までののは、それが観光連盟であったり観光協会だったわけですけども、それをもう少し幅広く、もっと行政や民間を巻き込んで、一つのまちづくりの核となるような推進組織をDMOと呼んでますね。

当初は、今のまちの灯台阿久根をその役目を果たさせようとしたんですけども、株式会社で、やはり利益を追求しないといけないと、やはり、事業主体になってしまうので、ああいう組織のことは、DMOに対してDMC、Oがオーガニゼーション、まあ組織、広い組織なのに対してDMCっちゅうとカンパニー、つまり、利益を上げる会社、まあよく地域商社とか、地域の旅行社とか、そういう形でもうけることも地域ではもちろん観光でもうける会社がないといけないわけですから。

そうしたDMCを下部に置くDMOという組織、それは利益追求じゃなくて、むしろ利益を度外視した対外的な、もちろん、また、大野さんが言ったように、市内の組織をまとめること、そして対外的にPRマーケティングをしていくというのがDMOの役割、それを市長が作りたいたい。

それは私は前から言ってるんだけど、その専門の人を今、「たからのまち」マネージャーで世界では結構有名な方を呼んでいらっしゃる。

それは行政が呼んでるので、我々が別途、もし予算があればそういうのに詳しい方を呼んでお話を聞くとか、ちなみに私もそういう専門家にちょっとついて勉強したことがあったので、そういう方も予算と時間があれば呼べるかなと思います。

竹之内和満委員長

なるほど、分かりました。

とりあえずですね、今回のテーマに沿った形でちょっと進めたいと思いますが、まず観光の振興についてですが、今まで、海の活用、食のまち、景観、海、グラスボートを生かす、市内の商工関係をまとめるみたいな形ですね。

そうした場合、これらの目的を達成するため、どこどこを、どういうところを見に行ったらいいかなど。

白石純一委員

私はですね、さっき言ったその海を活用した観光というのは、2にもつながってきますよね。

特に阿久根の場合は旧港を含む市街地活性化っていうのは、やはり、海を前面に持つこの市街地の活性化、当然つながってきます。

道の駅の整備っちゅうのも、場所は今、あちらの大川のほうですけども、これも海辺にある道の駅もあるわけですね。

私はこの3つに共通する視察として2か所、多分前回の産業厚生委員会、前期のですね、でも提案したんですけども、コロナでなかなかそういうところに勉強に行く機会がなかったので、今回同様に、私は2か所、ぜひ委員皆さんと一緒に拝見したいなと。

それはですね、1か所目は、牟田委員がおっしゃった天草、牛深ですね、牛深のグラスボート。グラスボートというか、水中、なんていうの。

グラスボートって上から見るやつだけど、ここに泊まってるのは、1段下がって海中を横から見るものですね。

その船が牛深に同じようなものがありますから、その牛深の船と、あと上天草に、旧港、魚市場じゃないけど木材港のような跡地を大変、整備して、すごく今人気のある場所があります。

上天草市松島地区ですね。

そこが一つ天草でぜひ見てみたいなと思っているところです。

あわせてちょっと遠いんですけども大分からですね、フェリーで渡ったところに愛媛県八幡浜港というところがあって、そこがやはり港を再開発して、そこに道の駅を置かれているんですね。

ですから、港の再開発と道の駅、そしてその隣は魚市場があって、魚市場も巻き込んだ観光地になってますので、その天草と愛媛県八幡浜港。その2つを、私はこの3つがカバーできる視察として、提案したいと思います。

竹之内和満委員長

いいでしょうか。それは1回で。

〔白石純一委員「2か所、1日で回りきれないと思いますから1泊2日とかですね」と呼ぶ〕

竹原信一委員

何だっけ、その問題意識も非常に、白石議員、ヒントもあるような感じなんですけれども、じゃあさあ、ここの議会費を使ってでもいいから、一人で見に行行って報告して詳しくしていただいたほうが成果が出るんじゃないですかね。こんな人数いっぱいってぞろぞろ、重いでしょ動きが、身軽に動けるんじゃないですか、一人で行って報告してもらったほうが。

濱田洋一委員

竹原委員の今の御意見にちょっとあれして申し訳ないですけど、やはり、それぞれの感覚というのは見に行った中で、見る視点が違ったり、私が例えば気づかなかったところを竹原委員が気づいてくださったりとか、やはりこの委員会で行く理由というのはそこがあるとと思うんです。

ただ、一人で例えば行って確かに勉強されてきて報告を受けるっていうのも、あるのかもしれないですけど、ただそれはその人が感じたところ。その人の範囲で確認できたこと、

思ったことでしか、なかなか、感じてなかなか伝えることがなかなかできなかつたりというのがありますから、それぞれ各委員の、この委員会で行かしていただいて、それぞれの視点と観点で確認させていただくと。そういうことがよろしいんじゃないかなと、私は思いました。

牟田学委員

今、白石委員が言ったその海の観光、活用、それはもうそれでいいと思いますよ。

もう一つ、この今計画段階である新道の駅についてですけれども、前回、前期の産業厚生委員会でもですね、一般道からも入れる、あと高速からも入れる、その道の駅っていうのを大分やったっけ、大分ともう1か所、富士にも行ったことがありますね。

もうそこはそれで成功してるんですよ。

だから、今、阿久根市がこうやって計画をしてる段階で、やはりそこ辺りをですね、もう1回見てですね、どういうシステムなのか。そこあたりの調査ができればいいかなというふうに思います。

白石純一委員

大分のその道の駅は、ちょうど阿久根が、市が考えてるのと非常に似たタイプのもので、さっき言った大分から愛媛にわたるのであればそんなに遠くない場所、お互い場所かと。

[発言する者あり]

竹之内和満委員長

はい、何かほかにございませんでしょうか。

竹原信一委員

ですね、ここ二、四、六、七人。7人。

7人で、行って帰ってきてのと、一人で行って帰ってきてする、それぞれの感覚の話をたかが7人ですよ。大事なことは伝えること。

本人たちがどう感じたかなんかっていうのは、もう伝えられないですよ。

はっきり言ってそれが1人でしっかり見てみて、言葉、言葉ですから所詮。それが集中してできる人が、データを集中して皆さんに分かりやすい言葉で言う、それが7人でやってよくなるわけじゃないです。

集中させて本当にいいものを、いい情報を生かせるように、それはやっぱりね、一人でやったほうが絶対うまくいくし、伝える環境も伝わる、俺は感じてきたんだ、なんちゅうのは人には伝わりませんから。

しっかりと、やるべきで、本当ね、散らばってしまうだけなんです、人数行ったって。俺は感じてからためになりましたなんていうのはね、報告にならないんです。

報告ちゅうかね、成果を出す材料にならないこんなじゃと私は思っております。

竹之内和満委員長

なるほど。

でも個人の場合はもう委員会と関係なくならないですか。

個人でもういけばいいちゅうことですよ。

大田基次委員

今、竹原さんが自ら言わったように、一人で見えて伝えて言って伝わらないんですよ。

だからみんなで見えて、その場で意見を言い合えば、もっとうまくまとまるんじゃないす

か。

〔発言する者あり〕

違う違う。良い意見を出し合ってやろうということですよ。

〔発言する者あり〕

竹之内和満委員長

はい、手を上げて。はい、そうですね。

白石純一委員

今、天草の例、牛深と天草の例出しましたけれども、私は阿久根っていうのは、天草、長島・天草・長崎の一つの観光ルートは将来、天草はキリスト遺産、世界遺産にもなりました。

その起点、阿久根はスタート地点にもなりうるので、天草とのやっぱり連携というのは阿久根の観光の振興についても非常に大事なことになるので、その点からも天草を視察するというのは、大事なことなのかなあと。

そこには、さっき言ったグラスボートもあるし、私の上天草松島地区には、ここにもう1艘あるモーターボートで遊覧できるような観光もされてますので、それも見て役に立つのではないかなと。

牟田学委員

今、いろいろ出てます、案が。率直に2か所ていけるんですか。

竹之内和満委員長

どうなんですかね。

〔発言する者あり〕

松林議事係主任

委員会として決定をしたところに対して、当然、予算的なものがあるって、足りないのであれば補正を組んで、それなりの調査を行うことになります。

〔発言する者あり〕

竹之内和満委員長

休憩にします。

(休憩 午後1時21分～午後1時23分)

竹之内和満委員長

それでは休憩前に戻って会議を再開いたします。

今まで委員会に出たものを総合しますと牛深、上天草の松島というところですかね、これが観光の振興と2番の旧港及び青果市場跡地を含む市街地活性化これ、これ2つにつながってくるかと思えますね。

大分の道の駅については3番の新道の駅の整備について。

この2か所に別日に2か所にする。

白石純一委員

それに加えて大分から、船で2時間ぐらいなんですけれども、八幡浜港が1番にも2番にも3番にも、そこに、港に道の駅が。ですから1番2番3番にも資する適地だと思います。ですから、大分に道の駅を、大分の道の駅とあわせて、愛媛の八幡浜にわたることで

さらに1・2も、3までカバーできる。

竹之内和満議員

なるほど、2つに分かれるんですね。

牟田学委員

今のコースと。グラスボートは別な日に日帰りでも行けるんじゃないですか。

竹之内和満委員

十分行けますね。

白石純一委員

なかなかまた別日というよりは、私は1泊2日で大分と。

竹之内和満委員長

両方。

白石純一委員

順番はどっちでもいいです。大分と愛媛と天草。

〔竹原信一委員「いやちよっときついな。」と呼ぶ〕

竹之内和満委員長

相当きついと思いますね。

竹原信一委員

私はもう一つ提案したいと思って、町ぐるみで団結して観光の振興を図っているのは、実は長島町なんです。団結もできてるし、体制もできてる。

それを学びに行くことが非常に重要だと思いますよ。

ですから、今のグラスボートの検討、一緒抱き合わせて長島町の勉強しましょうよ。

〔発言する者あり〕

合わせてやりゃあいいじゃん。

竹之内和満委員長

1回区長会で長島町に研修したことある。

みんなの反対を押し切って自分はしたことあった。

こんな近いところなんやねんって言われ。今あれですね、休憩中じゃないですね。

分かりました。

それじゃ、まずはですね、一つ目が牛深・上天草の松島。二つ目のコースが大分、愛媛の道の駅。これを別日にするか一緒にするかはどうしましょう。

〔発言する者あり〕

スケジュール次第、スケジュール次第でちよっと組んでできるかという。

はい、休憩に入ります。

(休憩 午後1時26分～午後1時28分)

竹之内和満委員長

はい、それでは休憩前に戻ります。

それでは所管事務調査については、三つの観光の振興について、旧港及び青果市場跡地及び市街地活性化について、新道の駅の整備についてを2コース、2コースを一応設定して考えたいと思います。

一つ目が、牛深、上天草。

白石純一委員

牛深から上天草に行くと必ず、陸路だったら本土を通りますよね。

本土の町がちょうど阿久根と似たような規模で、そこで古い橋だとか、古い映画館だとか、そうした古いものを利用したまちづくりもやられ、そこの前を通るだけでも、いいと思います。

竹之内和満委員長

具体的なところはまた入れ込んでみたいと主なコースで、牛深・上天草コースと、一つは大分愛媛の二つのコースでいきたいと思います。

1回でできるのか、別日に分けるのかそれはこちらのほうでは任せてほしいと思います。以上のことでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

〔「長島町は」と呼ぶ者あり〕

すいません、ちょっと長島町。

長島町も入れたいと思います。

〔発言する者あり〕

長島町も入れたいと思います。

以上の三つですね、長島町のコースと。

調整については、これから調整が多少必要でありますので、こちらのほうに任せてもらって、そのほか何かございませんでしょうか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

はい、なければ以上で産業厚生委員会を散会いたします。

(散会 午後1時29分)

産業厚生委員会委員長 竹之内 和 満